



郷音

H i b i k i



令和3年10月1日

## 学びの改革で 子どもも先生も生き生きと！

～9/2（火）学びの改革実践校 情報交換会 オンライン開催～

東信管内から30名の先生方が参加し、発表と情報交換で質問する1時間というコンパクトな研修でした。学びの改革実践校である軽井沢西部小学校、軽井沢中部小学校、小海中学校の発表から互いに多くのことを学び合いました。各学校の発表内容を紹介します。



### 軽井沢西部小学校

#### 【自主的な学び手を育てる】 個に応じた学び 自由進度学習（算数科）

##### 12 学び合い

ヘルプ～！



「先生、〇〇ちゃん、テストでも位取りの紙を使っていいでしょ？」



「じゃあ、本当にわかったかテストしてみようよ。」

子どもたちは、「進度表」で自分の進捗を確認しながら、自分のペースで学んでいます。わからないことがあると、教師に頼るのではなく、友に聞きながら進んでいきます。自主的な学び手という目指す姿の実現に向けて着実な取組を積み上げています。

##### <参加者の感想より>

「自主的な学び手を育てる」は、本校が目指す方向とも重なり、大変参考になりました。自由進度学習は、子どもたちの主体的な学びや学び合いにどうつながっていくのかに興味をもちました。学習が遅れがちな子への教師の支援や子どもの関わり、進度に合わせた学習プリントの準備など、様々な支援がされていることを知りました。

## 軽井沢中部小学校

### 【自分らしい学びに向かう】 信州型UDを通じた授業改善

タブレットを用いる子ども、ヒントカードを用いる子ども、学習プリントを用いる子ども、のように、自分に合ったものを自分で選んで学習します。また、自分の考えがもてると自由に友だちと意見交換しています。

手元で関係図の説明を確認できる

自由に動き、友だちと問題を解き合う

個別に配慮



ヒントカード



授業に参加できる工夫

<参加者の感想より>

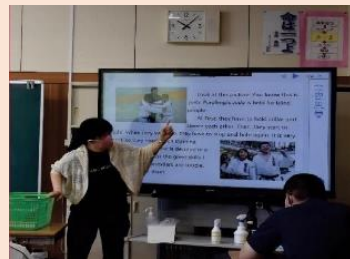
軽井沢中部小の信州型UDを軸とした「自分らしく学ぶことのできる授業づくり」は、児童・生徒の多様性を受け止め、伸ばしていくうえで、とても大切な視点だと感じました。

まず、どう職員の共通理解を進めていくかに興味がありました。先生方が目指す子どもの姿を共有し、一つになって取り組んでいる実践に奮い立つ思いがしました。

## 小海中学校

### ICTを活用した「小海中STYLE（学び）」の構築

【共に学ぼう 自ら学ぼう】 生徒同士が必要感のある対話を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく授業



教師主導の一斉授業から生徒主体の協働・課題追究型の授業へ向け、どのようにICTを活用していけばよいか全校で考えています。ペアで学習カードを基にプレゼン練習をすることからスタートし、授業の導入の場面、個人追究の場面、また発表の場面と、「まずはやってみよう！使ってみよう！」を合い言葉に進めています。

<参加者の感想より>

ICT活用構想シートを作成し、きちんと授業への位置付けを行い、意識をした上で授業を行っているところがよいと思いました。しかも一年間で全職員が1回は取り組むというので、職員の意識が高いと思いました。何より全職員の今年度の合い言葉があり、「まずはやってみよう！」というところがよいと思いました。

次回「東信地区学びの改革実践校オンライン情報交換会」11月1日（月）

発表校：佐久市立臼田小学校、東御市立滋野小学校、上田市立東小学校、上田市立第三中学校

この情報交換会は、実践校の発表から学び合うことができます。どなたでも参加できますので、ぜひご参加ください。

